

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立富士見丘小学校
校長名 稲垣 達也

令和4年度 特別支援教室の教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、特別支援教室による指導を下記のとおりお届けします。

記

1 特別支援教室の教育目標

- ・児童一人一人の障害や能力に応じた適切な教育を行い、学校や社会において自信に満ちた、情緒の安定した生活を送ることができるようにする。
- (1) 自立活動
 - ア 自己理解と自己受容を深めて情緒の安定を図り、児童がその能力を十分に発揮することで、豊かな学校生活を送ることができるようにする。
 - イ 自分の気持ちを人に伝えることのできる子ども、友達と一緒に行動できる子ども、いろいろな活動に喜んで参加できる子ども、自分自身を肯定することができる子どもを育て、周囲の人間との望ましい人間関係を築けるようにする。
 - ウ 運動面の感覚統合の指導を通して、体幹を整えたり、自身の体を適切に制御する力を身に付けたりする。
- (2) 各教科の内容を取り扱いながら行う自立活動
 - ア 児童一人一人の認知特性や行動特性に応じた学び方を身に付け、在籍学級での授業へ参加し、学習内容を正しく習得し活用できるようにする。
 - イ 時間や物の管理を含め、学習規律「富士見丘スタンダード」を身に付けて学習活動に参加できるようにする。

2 教育目標を達成するための基本方針

- (1) 自立活動を中心とした指導(小集団、個別)を行い、人間関係の改善や意思の伝達能力の向上を図る。
- (2) 児童の実態を適切に把握し、在籍学級担任及び保護者と協議して、学校生活支援シートや個別指導計画を作成し、個に応じた指導の徹底に努める。
- (3) 小集団指導や個別指導の中で、ソーシャルスキルトレーニングや個に応じたワークシートによるトレーニング、話し合い活動を行い、好ましい人間関係を築くための意欲、態度、技能を身に付ける。
- (4) 個別指導と個別的配慮をした小集団指導を組み合わせ、より大きな集団である在籍学級での適応を図る。
- (5) 学級担任をはじめとした全職員と、児童の課題や学習などの目標について共通理解し、保護者との連携を密にし、協力して指導の充実を図る。

3 指導の重点

- (1) 自立活動
 - ア 特別支援教室におけるすべての指導や活動を通して、意思表示を促し、言葉、動作、表情等のコミュニケーションの能力を伸ばしながら、より良い人間関係の構築を図る。
 - イ 元気アップガイドブックを活用し、グッドモーニング60分など生活のリズムや習慣を身に付けさせ、心身ともに健康で安全な生活が送れるようにする。
 - ウ 基本的な運動を通し、感覚機能や運動能力の向上を図り、感覚の偏りを軽減する。
 - エ 作業を通して、集中力や持続力の向上を図り、やり遂げる経験を多くもたせる。ルールを理解を図り、周囲の状況を把握し、行動や感情をコントロールできるようにする。
 - オ 保護者、在籍学級担任と連携し、個々の児童の実態に応じた適切な進路指導を行う。

4 その他の配慮事項

- (1) 学年や知的理解力、人間関係を考慮して、指導グループや担当者を決めて指導する。また、通室日数、通室曜日、指導時間数は、在籍学級での適応状況を見ながら、保護者及び在籍学級担任と協議して決定する。
- (2) 家庭や在籍学級担任との情報を恒常的に交換し、連携を深める。(連絡帳の活用、学校生活支援シートの作成、家庭訪問、保護者会、在籍学級担任との面談、在籍学級参観・懇談、大空教室授業参観・懇談 等)
- (3) 情緒固定学級児童、教員との交流や、通室児の在籍学級の児童が、大空教室の活動を理解するための啓発活動、理解教育を実施する。
- (4) 専門家を招いて指導・助言を仰ぐことにより、教員の専門性を向上させ、より充実した指導を目指す。
- (5) 退級(原則1年)に向けたスケジュールを明確にし、保護者に寄り添い、いつ校内委員会でも検討、管理職と協議し次年度に向けた方向性を示す。